

令和8年度 学校教育目標・経営方針

1 教育目標

想像×創造 ～想い描き、共に創り出す私たちの未来～

未来を主体的に切り拓くため、確かな資質・能力、豊かな社会性、健やかな心身を身に付け、共に
よりよく生きる生徒を育成する。

【めざす生徒像】

- 未来志向力: 生き方を追求し、夢や目標の実現に向けて「今」を努力する生徒
- 探究力: 課題に対し、主体的に粘り強く考え、納得解・最適解を見出す生徒
- 自律力: 失敗や困難を乗り越え、レジリエンスをもって自己の成長を目指す生徒
- 共生力: 豊かな感性で互いを尊重し、よりよい人間関係を築く生徒

【めざす教職員像】

- 使命と責任を自覚し、生徒一人ひとりに寄り添い、支援・伴走しながら可能性を引き出す教職員
- 人生の先輩として魅力ある姿を体現するため、主体的にアップデートし続ける教職員

2 経営方針

教職員、家庭、地域が連携し、教育課程全体を通じて生徒の成長を支援する、組織的かつ持続可
能な学校運営を推進する。生徒にとって希望と充実感があふれる魅力ある学校づくり、家庭や地域
から信頼される学校づくりを進める。

- ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、ICTの効果的な活用を通じ、生
徒が学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解できるように努める。
- イ 学校行事・体験活動・道徳教育の充実を図り、それぞれの取り組みを関連させて、日々の生活に
生かす心の教育を推進し、自己有用感・自己肯定感を高める。
- ウ 自他の生命を大切にし、他者の思いを尊重して考えることができる生徒を育成する。
- エ 夢や目標に向かって努力する気力と体力を備え、想像力と創造力をもって自ら考え行動する生
徒を育成する。

3 本年度の重点努力目標

本校の学校教育目標の達成に向け、「学習指導要領」および「あいちの教育ビジョン」「一宮市学校
教育推進プラン」が求める資質・能力の育成に基づき、具体的な成果を目指す。

ア 学習指導

- 「個別最適な学び」を推進し、個に応じた学習方法の工夫や単元テスト、個々の進度や興味に
応じた学びにより、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせる。
- ペア学習やグループ学習、討論など「協働的な学び」を充実させ、自分の意見や考えを論理的
にまとめ、他者に伝え合う力(言語能力)を強化し、多角的な視点から納得解や最適解を見出
す思考力・表現力の育成を図る。
- 各教科の「見方・考え方」を働かせた課題解決型の取り組みや探究的な学習を充実させ、学び
に向かう意欲を喚起する。

イ 生徒指導

- 学校行事や生徒会活動などへの積極的な参加を促し、生徒自らの力で創り上げる喜びを実感
させることを通して、自律した人間として他者と共によりよく生きる態度を育てる。

- 生徒理解に努め、具体的な場面で「受容からの指導」を通して、生徒の多様な背景を理解した伴走型支援を行い、規律正しい態度と自己指導能力を確立させる。
- 保護者や関係機関との連携を強化し、いじめ・不登校への組織的な取り組みを通して、生徒一人ひとりの思いを尊重し、「居場所づくり」を大切にする。

ウ キャリア教育

- 「働く人から話を聞く会」や「職業調べ」を通し、実社会の多様な生き方に触れ、自らの「個性や可能性」を見つめることで、学ぶことと働くことの意義を自分事として捉えさせる。
- キャリア・パスポートを活用し、日々の活動を振り返り蓄積することで、自分自身の成長(変容)を実感し、将来の夢に向けた努力の方向性を明確にさせる。

エ 豊かな心を育てる指導

- 道徳の時間において、「考え、議論する道徳」を推進し、正解のない問いに誠実に向き合い、他者の意見から自分の考えを深める対話的な活動を大切にする。
- 日本の伝統文化に触れる機会や国際理解教育を通し、自分とは異なる価値観や背景を尊重し、多様性を受け入れる感性の醸成や広い視野で物事を捉える力を養う。
- デジタル社会におけるマナーや情報モラル教育を推進し、多様な価値観を認め合いながら、SNS等のツールを正しく活用して共によりよく生きるための感性を養う。
- 「福祉実践教室」や各種ボランティア活動、清掃活動を通し、人の役に立つ喜びや他者と支え合う「共生の精神」を体得し、社会貢献を通じた自己有用感の向上を目指す。

オ 健康教育

- 食育や生活リズムの指導を通し、「自分の体は自分で守る」ための知識と望ましい健康習慣を、家庭・地域と連携して定着させる。
- 「救急救命講習」や「薬物乱用防止教室」、防災訓練、交通安全指導などを通し、命の大切さを自覚させ、不測の事態に際して的確に判断・行動できる実践的な危機回避能力と安全意識を育てる。
- 運動の楽しさを味わいながら粘り強く取り組む力を養い、自己管理能力と体力の向上を図る。

カ 信頼される学校づくり

- 現職教育を活性化し、対話的な学びを支える指導力を全校体制で磨き、生徒一人ひとりに寄り添った「受容からの指導」を推進する。
- 学校公開やウェブサイトを通し、生徒が生き生きと活動する姿を発信し、保護者・地域の声を学校運営に反映させる。
- 学校運営協議会や小中連携を核として、地域全体を学びのフィールド(教育資源)として活用し、地域に愛着をもつ子どもを育てる。

キ 持続可能な教育の質の向上

- 働き方改革を「子供の学びの充実」に直結させ、「ひとりも取り残さない」教育を実践するために、創意工夫あふれる質の高い教育活動を安定的・継続的に提供できる体制を維持する。
- ICTを活用した校務のDX化を推進し、業務内容の見直しを進め、教職員が心身ともに健康で、専門性を最大限に発揮できる環境を整える。
- 教職員一人ひとりが互いのライフステージに配慮し、強みを活かして支え合う、柔軟で機動力のあるチーム体制を構築する。